

地域資源の活用を促進し持続可能な未来へ繋ぐ

～天草地域の事例～

はじめに

熊本県には、熊本城や世界ジオパークネットワークに認定されている阿蘇地域など、観光の目玉となる魅力的な地域資源が数多く存在している。そのため、国内外から多くの観光客を集めていたが、直近2年間はコロナ禍による移動制限に伴い観光客は激減し、関連業界も大きな打撃を受けている。

本県には、上記以外にも魅力的な観光資源を有する地域が数多く存在している。とりわけ天草地域は、天草五橋が開通するまでは県内唯一の島嶼部であったため、歴史や文化、生態系など、独自の発展を遂げてきている。世界文化遺産に登録されている崎津集落は、その代表例であるが、このような固有の地域資源が多数存在しているものの、観光の現状を見る限りまだ活用の余地は十分にあると考えられる。そこで本稿では、天草の豊富な地域資源の活用による観光振興についての考察を行った。

1 地域資源の活用

- 熊本には、郷土が育んできた地域資源が豊富にあり、特に自然資本と文化資本は観光産業を中心に重要な資本となっている。
- 多種多様な資源を効果的に活用し、組み合わせることで相乗的に価値を向上させることは、地域の活性化において重要である。

(1) 地域資源とは

地域資源とは、その地域内に存在する、利活用可能な資源のことを指し、自然資本、文化資本、社会関係資本等に分類できる。熊本は、温暖な気候や文化歴史に恵まれて、地域固有の資源が数多く存在しており、特に自然資本と文化資本は観光産業を中心に重要な資本となっている。

下表は熊本の地域資源について、その種類ごとに熊本の資源の例を挙げたものである（図表1）。このような、多種多様な資源を効果的に利活用し、組み合わせることで相乗的に価値を向上させることは地域の活性化において重要であると考えられる。

図表1 地域資源の分類

資本名	資源の種類	熊本の主な資源
自然資本	気候、地理、地下水、河川、鉱物、地熱、景観	温暖な気候、盆地、阿蘇山カルデラ、地下水、天草陶石、すいか、メロン、イ草、山林、里山の風景、大観峰、天草夕陽八景、イルカウォッチング 等
文化資本	歴史的構築物、文化財、伝承文化、芸能、郷土出身者、祭り、気質、郷土料理	熊本城、万田坑、三角西港、崎津集落、球磨焼酎、日本酒、各地の文化財、肥後象眼、清和文楽、寺社仏閣、加藤清正、天草四郎、北里柴三郎、牛深ハイヤ節、肥後もっこす、からし蓮根 等
社会関係資本	地域ネットワーク、地域活動、構築物、家屋、市街地、交通基盤	地域の自治会、同窓会、PTA、老人会、消防団、サクラマチ、博物館、学校、各市町村の市街地、道路網、市電網、バス網、橋梁 等

資料：当研究所作成

2 天草地域の観光動向と人口動態

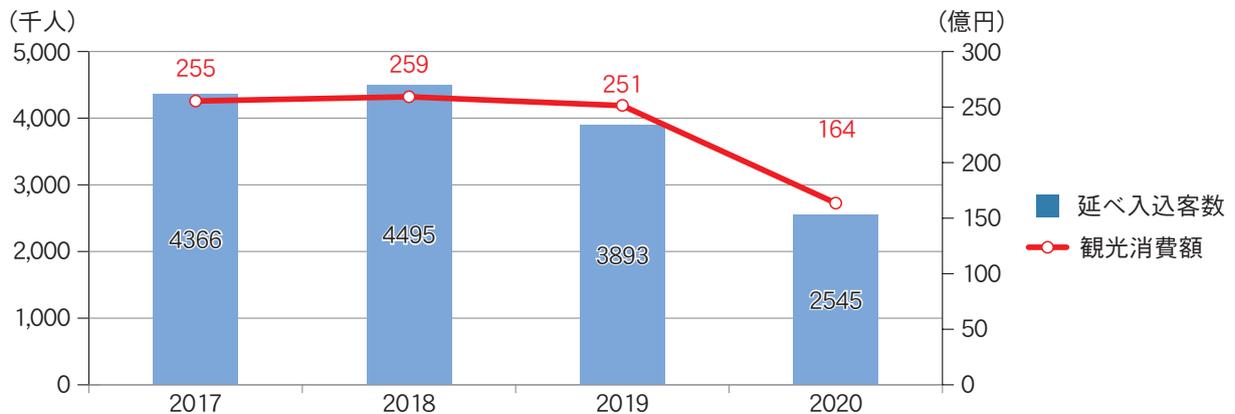
- 天草地域の観光客数は2017年から横ばいであったが、コロナ禍で例外になく大きく減少した。観光消費額も同様に落ち込んだ。
- 域内の人口も減少を続けており、特に15～64歳の生産年齢人口の減少が顕著。今後、高齢化の進行が予測される。

(1) 観光の動向

2017年以降における天草地域*の延べ入込客数の推移をみると、2019年まで横ばいであったが、2020年はコロナ禍により大きく落ち込んでいる。それに伴い、観光消費額も落ち込んでいる（図表2）。

※ 天草地域：天草市、上天草市、苓北町

図表2 天草地域の観光客数および観光消費額の推移



資料：「令和2年 熊本県観光統計表」より当研究所作成

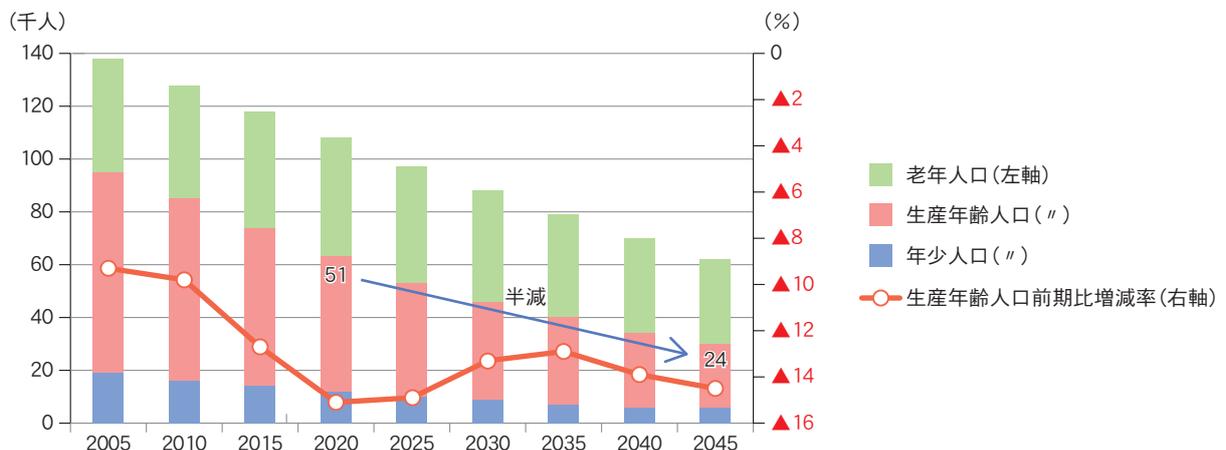
※2018年に調査方法に変更があり、2017年は参考として掲載。

(2) 人口減少と高齢化

熊本県の人口は、1995年をピークに減少を続けているが、天草地域においても同様である。特に15～64歳の生産年齢人口の減少が顕著で、2020年から2045年までにその数は半減するとみられている。

一方、老年人口の減少は生産年齢人口の減少に比べて緩やかなことから、今後の高齢化が予測されている（図表3）。

図表3 天草地域の人口区分別の推移



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より当研究所作成

3 天草地域の資源

- 天草地域は自然・文化資本で構成される地域資源を数多く有する。
- コロナ禍でマイクロツーリズムへの需要が高まっており、地域資源の有機的な結びつきを強化することで周遊性を高める。

図表4 天草の地域資源MAP

- ① イルカウォッチング
- ② 道の駅
天草市イルカセンター
- ③ 富岡城
- ④ 天草陶石
- ⑤ 下田温泉
- ⑥ 西平橋公園
- ⑦ 大江教会
- ⑧ 天草ロザリオ館
- ⑨ 天草夕陽八景
- ⑩ 崎津集落
- ⑪ 道の駅 崎津
- ⑫ 天草コレジヨ館
- ⑬ シャリンバイの丘
- ⑭ 茂串海水浴場
- ⑮ 道の駅 うしぶか海彩館
- ⑯ 牛深ハイヤ大橋
- ⑰ 牛深海域公園グラスポート
- ⑱ 天草オリーブ園
- ⑲ 天草キリシタン館
- ⑳ 西の久保公園
- ㉑ 天草瀬戸大橋
- ㉒ 藍のあまくさ村
- ㉓ 天草四郎ミュージアム
- ㉔ 車えび養殖発祥の地
- ㉕ 天草五橋
- ㉖ シードーナツ
- ㉗ ミオカミーノ天草
- ㉘ 田んぼアート
- ㉙ 道の駅 有明
- ㉚ タコ街道
- ㉛ 島原・天草一揆緒戦地
- ㉜ 河童伝説
- ㉝ カヤツ丸展望台
- ㉞ 倉岳神社(倉岳山頂)
- ㉟ 棚底城跡
- ㊱ 倉岳大えびす像
- ㊲ 御所浦白亜紀資料館
- ㊳ 道の駅 宮地岳かかしの里
- ㊴ 竜洞山みどりの村
- ㊵ 産島キャンプ場

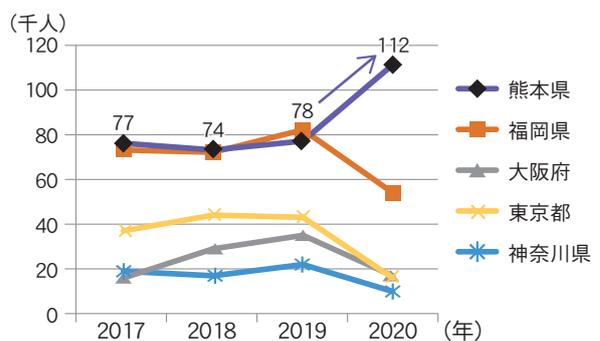


資料：天草宝島観光協会「天草イラストマップ」より当研究所作成

天草地域は、豊富な水産資源や、2018年に世界文化遺産に登録された崎津集落など、魅力的な地域資源を数多く有しており、観光産業のポテンシャルは高い。従って、観光振興に取り組むことは域内のGDP増加や人口減少の抑制に資すると考えられる(図表4)。

また、コロナ禍で旅行先は遠方から近場へと変化しており(マイクロツーリズム)、天草市においても熊本県内からの宿泊客が増加している(図表5)。今後もマイクロツーリズムの需要を取込むためには点在する地域資源の有機的な結びつきが求められよう。

図表5 天草市の居住都道府県別の延べ宿泊者数



資料：観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」より当研究所作成

4 観光振興に向けた地域資源の有効活用

- 地域資源を積極的に再評価し、情報発信を行う。
- 自然資源の保護や管理により変わらない環境を維持し、持続可能な観光を目指す。
- 持続可能な天草の観光を支える、次世代の担い手確保が重要。

天草地域の観光振興に向けた、地域資源利活用の取組みや、地元の問題意識を探るために行政や地域事業者のヒアリング調査を実施した。

(1) 天草市観光振興課

天草市観光振興課では、with/afterコロナを見据えた事業に取り組んでいる。

地域資源の再評価と情報発信

天草町大江の西平椿公園にあるアコウの木は、通称「ラピュタの木」と呼ばれており、地元住民によって意欲的な管理・活用がなされてきた。これらの活動により、同公園は、近年観光スポットとして人を集めるまでに成長している（図表6）。

また、同課では、2020年10月からコミュニティエフエム「みつばちラジオ」で観光・文化等の情報を発信する番組を開始。「地元の人でも初めて気が付くような地域の情報」を届けたいとしている。

図表6 西平椿公園 通称「ラピュタの木」



資料：熊本県観光振興課HPより

(2) 天草宝島観光協会

天草宝島観光協会では、天草市観光振興課と連携して「食」に力を入れた地域資源の魅力をアピールしている。

「食」を活用した持続可能な観光振興

海産物を主とした天草の「食」の魅力は広く知られているが、代表的な伊勢海老は養殖が難しく全て天然物のため、乱獲すれば枯渇してしまう恐れがある。

そこで、天草市の事業者で構成されている同協会では、養鶏・養殖技術が確立しており、生産量がコントロール可能な天草大王や車えびを用いた地元食材のキャンペーンを行い、資源の枯渇を防いでいる（図表7）。

また同様に、「天草生うに三昧」キャンペーンも、うにが生息する藻場の維持管理に必要な費用を料金に組入れることで、資源の保護と持続可能な観光振興に取り組んでいる。

図表7 地元食材のキャンペーンチラシ



資料：天草宝島観光協会HPより

(3) 株式会社シークルーズ

定期航路運行やマリーナ運営を行っている株式会社シークルーズ（上天草市）は、自社の有する経営資源を効果的に活用しながら、天草地域の活性化に取り組んでいる。

① 新たなアクセスルートの創出

～天草宝島ライン～

同社は、2011年3月の九州新幹線全線開業に合わせ、JR九州の観光列車「A列車で行こう」ともタイアップした「天草宝島ライン」航路の営業を開始した（図表8）。この航路は、JR三角線の終着駅となる三角駅に隣接する三角港と上天草市の松島港を、新造したクルーズ船で繋ぐ航路で、天草地域への新たなアクセスルートの誕生となった。

同ラインの起終点となる松島港がある前島地区は、「リゾラテラス天草」（2015年開業）や「ミオカミーノ」（2019年開業）といった複合商業施設の立地が進み、現在、天草地域の観光拠点の一つとして重要な役割を果たしている。

② 高付加価値化の取組み

～イルカウォッチング利用者の満足度向上～

イルカウォッチングは、天草地域の重要な観光資源の一つで、遭遇率が9割以上と高いことから人気を集めている。従来は、ウォッチングスポット（通詞島沖）近くの港から出る、地元漁業者の漁船等に乗船していたが、同社では「天草宝島ライン」の開業に合わせて、同ラインに就航しているクルーズ船（最大定員90名）を使用したイルカウォッチングをスタートさせた。大人数のグループに対応、ドルフィントレーナーの資格を有する専門スタッフのガイドの同乗により、乗客とのコミュニケーションを図ることで利用者の満足度向上を実現している（図表9）。

③ 次世代を担う人材の確保

～域外の人的資源の活用～

天草地域には、シニア世代の経営者と40歳以上の中高年社員から構成される事業所が多く、20～30代の若手社員及び管理業務を担うミドルマネジメント層や事業企画を担う人材が不足していることを、同社の瀬崎代表は指摘している。

そのような中、コロナ禍で普及が進んだテレワークに代表されるように、働き方が大きく変容してきており、域外に居住しながら天草地域で就業することも可能になっている。実際に同社では、福岡県に居住する人材の雇用を実現した。テレワークと出社のハイブリッド勤務により、企画や広報などのクリエイティブ部門を担当し、域外に向けた情報発信や広域からの集客を実現している。

企業概要

【社名】株式会社 シークルーズ
 【代表者】瀬崎 公介
 【創業】1978年
 【事業内容】定期航路運航、マリーナ運営、イルカクルージング、ポート免許教室他
 【住所】熊本県上天草市松島町合津6215-22
 【HP】<https://www.seacruise.jp/>

図表8 天草宝島ラインの航路



資料：同社HPより

図表9 ガイド付きのイルカウォッチング



資料：同社HPより

おわりに～天草観光の目指す姿～

- 天草地域の未活用資源の再評価と発信力強化
- 「食」をはじめとした再評価資源の活用による経済資本への転換
- 「働く場」の創出と持続可能な観光ビジネスを担う人材の育成、確保

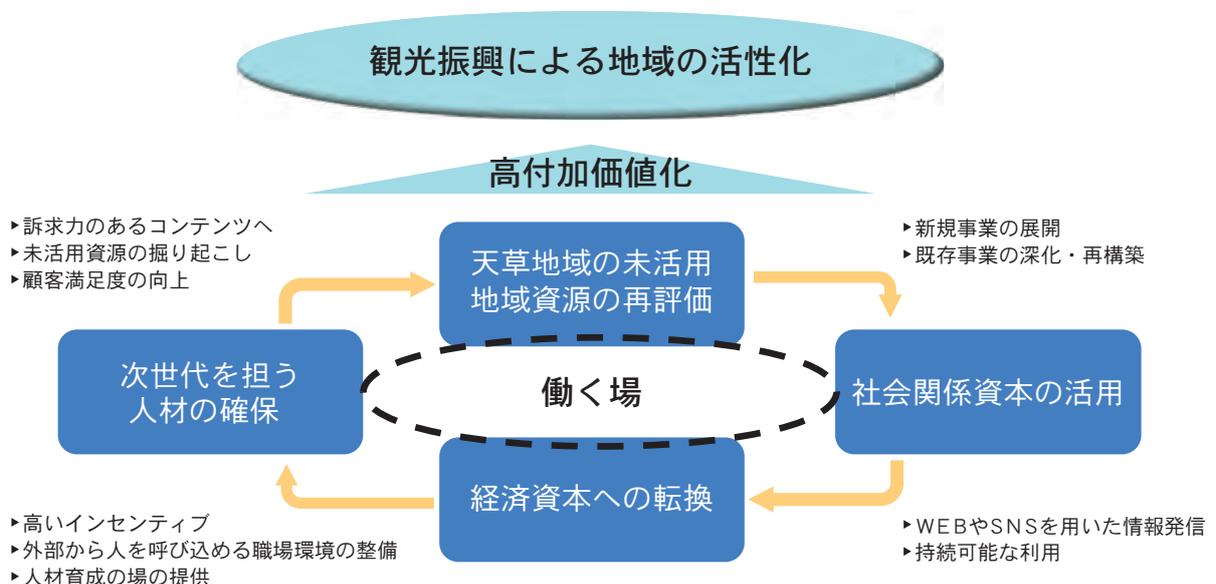
天草地域には、図表4（P.16）に示したように、数多くの自然・文化資本で構成される地域資源が豊富に存在する。しかしながら、地域資源の活用にはまだ十分な余地が残されており、経済資本への転換がスムーズに進んでいないのが現状であろう。本稿で考察したように、現在、官民を挙げた観光振興による地域活性化に取り組んでおり、天草市の「食」を活かしたキャンペーンの展開や、上天草市前島地区の観光拠点化など、徐々にその成果が現れているところである。しかしながら、今後予想されている人口減少や、観光産業の伸び悩みの現状を見る限り、更なる活性化に向けた取り組みの拡大と深化が求められよう。

そのためには、眠れる豊富な地域資源の再評価を行ったうえで、様々な媒体を駆使した発信力を高めることは、天草の魅力伝えるために有効な取組みとなる。2020年初頭から世界中で蔓延しているコロナ禍は、様々な社会環境の変化をもたらした。その一つとして、非接触型の情報発信を担うWEBサイトやSNSの果たす役割は以前にも増して大きくなっている。折しもDX（デジタルトランスフォーメーション）の取組みが加速する中、それらを駆使した更なる情報発信は、天草地域の再評価資源の活用による経済資本への転換に欠かせない取組みと考える。

また、水産資源を主とした天草地域の「食」の魅力は、観光客からも一定程度の評価を得ている。今後は「食」をはじめとした豊富な地域資源の再評価と活用による新規事業の展開や、既存事業の深化・再構築によって観光振興に繋げていくことが求められよう。

しかしながら、現状では、これらの取組みを担う人材の不足を懸念する声も聞かれる。今後は図表10で示すような観光振興に向けた好循環を生み出し、地域資源の経済資本への転換、すなわち地域企業の更なる活性化によって、持続的な観光ビジネスを担う人材の「働く場」を創出することが不可欠と考える。

図表10 天草地域の活性化に向けた観光振興のサイクル



資料：当研究所作成